

ユニーク発想子ども豊かに

長岡・米百俵デジタルコン

話聞く会話ロボがGP

子どもの暮らしを豊かにすることをテーマに、若者が新たなアプリやゲーム、機器などのアイデアを競った「米百俵デジタルコンテスト」の表彰式が、オンライン形式で行われた。人と会話するトークロボット「Ohanashi（おはなし）」がグランプリに輝いた。

ながおか・若者・しごと機構の主催で、2回目の今回は全国の学生らから83作品の応募があった。1次審査を通過した11点がさらに磨きを掛けられ、市内の小中学生約300人の投票でグランプリを、アートディレクターらの審査で各賞を決めた。

グランプリは、グラフィックデザインを学ぶ崇城大学（熊本市）3年の栗川さん（21）と岩永さん（22）、2年の木村さん（21）の作品。鉢植えの花をイメージしたロボットが話を聞いてくれ、内容によって色や表情を変えるところアイデアだ。

1日の表彰式で栗川さんは「事前アンケートから、小学生が『話を聞いてほしい』という思いを強く持っていると感じた。解決でき

たらいいなと考えた」と着想のきっかけを語った。他にも、1台でさまざまな調味料の適量を測れる器具や、動画で成り立ちから漢字を学べるアプリなどが各賞を受賞。審査員からは「人が困っていることを、自分たちの技術で解決できないかと考え続けてほしい」といった声が上がった。